

We are 殿下ファミリー

— 深めよう 地域のつながり 広めよう 殿下の魅力 —

殿下公民館

1 殿下地区の概要

殿下地区は、福井市中心部から西に約20 km、四方を山に囲まれた自然豊かな山間地に位置している。地区内には、風光明媚な武周ヶ池や霊峰越知山がある。武周ヶ池は、外周約4kmの緑深い森に囲まれた池で、遊歩道があり、森林浴が満喫できる。春の桜や秋の紅葉の季節は、水面に桜や紅葉が映る絶景が楽しめる。また、越知山は、若き泰澄大師が修行して悟りを開いた山で、毎年7月18日の越知山まつりには、地区内外から多くの参拝者が訪れる。

近年、少子高齢化や過疎化が進み、人口減少が著しい地区である。さらに、年々鳥獣被害も増加し、地区の活力低下が懸念されている。そうした中、地区の活性化を図るために、「殿下の里づくり組合」や「うららの殿下委員会」等のまちづくり団体が設立され、それぞれ魅力と活力ある地域づくりに取り組んでいる。

また、平成27年度より、少子高齢化と過疎化に苦しむ地域同士が協力して活性化に取り組もうと、「福井市西地区まちづくり協議会」を設立した。殿下、国見、越廼の三地区が共同連携してまちづくりに挑戦し、将来に向けての地域づくりを進める様々な取組を実施している。

令和元年5月1日現在、人口は411人、世帯数は180戸となっている。

2 殿下の里西雲寺の桜まつり

今年で24回目の桜まつりが、4月14日(日)に西雲寺境内を中心に実施された。西雲寺には、福井市の天然記念物に指定されている樹齢200年以上の3本のしだれ桜がある。「3本のしだれ桜を間近で眺め、青い山々に囲まれながら、のどかな気分で桜と殿下地区の特産物を満喫しませんか」とPRしている。山菜や葉ずし、越知そば、惣菜、ジビエ料理などの殿下地区の特産物や揚げパン、草餅などのスイーツも用意されている。無料コーナーでは、恒例の温かい呉汁やきな粉、あんこの草だんごがふるまわれている。



中学生が考案した殿下産ゆるキャラ「殿下の里ちゃん」のどら焼きのブースも用意されている。イベントでは、小中学生と卒業生21名が雅楽の演奏を披露した。満開のしだれ桜に囲まれた境内で、息を合わせて音色を響かせていた。さらに、殿下の良いところを子どもたちが挙げ、レゲエ歌手のシングJ・ロイ氏と一緒に作り上げた「殿下テーマソングDENGА」の披露、バルーンアートショーと盛り沢山な内容である。また、桜まつりの開会式で、福島県から桜の苗木2品種が贈られた。これは東日本大震災で被災した福島県の子どもたちを毎年招いてキャンプをしている殿下地区へ、震災復興支援への感謝として贈られたものである。

3 ジビエ料理の普及

公民館と殿下地区の団体「ねむの木会」が協力して、「殿下の味覚を食べ尽くそう」という事業を行っている。この事業のねらいは、近年イノシシ以上に地区住民を悩ませているシカの肉を使って、手軽に食べられるものを考え、今後シカ肉を食用にする手立てとしたいということである。平成30年11月10日(土)に、ねむの木会員を対象に、地産地消を目的とする料理教室を開催した。メニューは、シカ肉のウインナー入りの具沢山ポトフ、ニラとえのきのナムル、さっぱりご飯、濃厚フォンダンショコラの4品である。参加者からは、シカ肉ウインナーを地元産として今後販売する方向で考えてい

こうという意見が出された。また、今後、シカカレーやシカ肉のチャーシュー作りにも挑戦していきたいと考えている。



4 小学生を対象にした通学合宿

平成30年11月25日(日)から27日(火)までの2泊3日の日程で、初めての通学合宿を実施した。通学合宿の目的は三つある。一つ目は、子どもたちが親元を離れて他の家庭で共同生活を送ることで、それぞれの自立性や自尊心を高め、家庭だけでは学びきれない社会性を身につけさせる。二つ目は、地域住民との密なる交流を通して、次世代の子どもたちに殿下の良さや住民の心の温かさを肌で感じてもらい、地元愛を深めるきっかけとしたいということ。三つ目は、殿下地区で動き始めている農家民宿という素晴らしい取組を多くの家庭に知ってもらい、ホスト側の実践の場としてと、ゲスト側の体験の場としての双方にとって効果ある事業にしたいということである。

事前に校長、PTA会長、農家民宿経営者、公民館職員等が参加した計画会議を行った。この会議で、実施計



画、登校時の見守り活動、子どもたちの受け入れ先でのお手伝い、負担金、謝礼等を決めた。参加した児童は、2年生から6年生までの10人。4軒の農家民宿に分かれて宿泊した。参加した児童には、開所式までどこの農家民宿に行くかを知らせていなかったもので、楽しみ半分、不安半分というような顔をしている子が大多数だった。発表後は、農家民宿の人と一緒に、農家民宿でのお手伝いやスケジュール決めを楽しそうに相談していた。

子どもたちのふり返しシートを見ると、①あいさつはきちんとしましょう。②使うものは大切に扱い、きれいに保ちましょう。③自分のことは自分でしましょう。という合宿前に決めた約束は十分に守られていた。また、楽しい合宿生活を送るために大切な、農家民宿の人たちや他の友達への思いやりの心も経験することができていたようだ。



5 終わりに

殿下地区では、少子高齢化や過疎化等、様々な地域の課題が渦巻いている。しかし、危機感を持って殿下地区を何とかしなければいけないという熱い気持ちを持った人や、いろいろな事業に協力的な人が多い。

今後も、公民館と地区民が一体となり、殿下地区の特色を活かした公民館事業や、まちづくりを通して、地域の活性化につなげていきたい。

殿下公民館、殿下幼小中学校、殿下地区各種団体が連携協力した行事や事業が多く開催されています。地区民たち一人一人が、殿下地区に対する愛着が強く、地区を活性化するために何をするとよいかを常に考え、そのための労力をいとわないということを強く感じます。新聞に取り上げられる活動が多く、殿下公民館のHPをみると詳しいことがわかります。